

令和5年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- | |
|--|
| 1 地域と連携しながら教育の質の向上を図り、生徒が生き生きと活動する学習機会を設定する。 |
| 2 適切な評価を実施し、生徒のさらなる学習意欲と課題解決能力の向上を図る。 |

2 学校関係者評価

・ A：十分である B：おおむね充分である C：不十分である D：全く不十分である

評価項目	評価の考察	学校関係者評価	
1 カリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づき分掌や学年、教科等で実現に向けた計画を立て教育が進められた。 ・ 新型コロナウイルスによる制限が解除され、以前のような教育活動に戻りつつあるが、ノウハウを持った教員が異動で入れ替わり、対応に苦慮した。 ・ 生徒1人1台のPCとGoogleClassroomの一層の活用により、ICT機器を活用した。 	評価	B
改善方策	重点目標の共通化や分かる授業の実践、ICT活用の推進などを引き続きすすめていく。		
2 地域の信頼に 応える魅力あ る学校づくり の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・保護者・地域への学校webページ・ポスター・パンフレット等を刷新し、魅力的な情報発信に努めた。 ・ メールによる緊急連絡体制の充実に努めた。 ・ 今年度は他校種と交流する機会を増やし、授業や生徒指導に関する情報を積極的に交流した。 ・ 防災教育や探究活動など、地域との連携を取り、学習を進められた。 	評価	B
改善方策	教育活動の広報を今後も継続的にすすめる。また、教育活動に参加できる場合は積極的に参加してもらう。		
3 生徒一人一人 へのきめ細や かな指導や支 援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談や面談を通して生徒一人一人と丁寧に向き合い、生徒の指導を行った。 ・ 信頼関係を基盤とした指導や支援により、生徒の自己指導能力の向上を図った。 ・ いじめ防止に対し、組織的・計画的な取組に努めた。 ・ 特別な支援を必要とする生徒への指導・支援体制を整えた。 	評価	B
改善方策	集団生活への適応力や、対人関係の構築力などが大変多様な生徒実態であるため、1人1人個に応じた指導を今後とも進めていく必要がある。		
4 組織的・系統 的なキャリア 教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての教育活動を通じてキャリア教育を意識した取組に努めた。 ・ 「2年次のインターシップ」ではほとんどの生徒が職業体験をし、自らの職業的な能力や適性を学び、勤労観や職業観を養った。 ・ ICTを活用した進路関連情報の公開、各種ガイダンス機能を活用した進路指導を行った。 ・ 地域との連携・協働では、「北方領土関連行事」、「防災教育」、「地域巡検」等で地域の教育力の活用し教育を行った。 	評価	B
改善方策	1年次地域巡検、2年次インターンシップなどの総合的な探究の時間の発展継続、進路目標の探究と学びの深化につながる生徒への働きかけを充実させる。		
5 健康でいきいきと やりがいを持って 勤務し、教育の質 を高められる環境 の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍による制限解除に伴い、業務の効率化・平準化を行ったが、まだまだ精選が必要な部分が見られる。 ・ 以前よりも勤務時間に対する考えが深まり、効率的に業務を遂行することにより、学習や進路指導、生徒指導や教育相談について、教職員の生徒と向き合う時間を以前より増やすことができた。 ・ 分掌や年次、教科等の協働体制が確立し、風通しのよい職場環境が作られた。 	評価	B
改善方策	前年度よりも生徒と向き合う時間が増えているので、引き続き業務の精選について検討を重ねていく。		